

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

矢板市企業版ふるさと納税推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

栃木県矢板市

### 3 地域再生計画の区域

栃木県矢板市の全域

### 4 地域再生計画の目標

国勢調査による本市の人口の推移を見ると、本市の総人口は平成7年まで増加していたが、その後は減少傾向に転じ、直近の住民基本台帳によると令和8年1月1日現在29,661人となっている。

年齢3区分別にみると、生産年齢人口（15～64歳）は人口同様平成7年にピークを迎え、平成22年以降は減少幅が大きくなっている。老年人口（65歳以上）は昭和55年以降継続して増加している一方、年少人口（0～14歳）は平成2年以降減少しており、平成12年に両者の数が逆転し、令和2年は老年人口が年少人口の3倍以上となっている。

出生数は減少傾向が続いており、平成29年までは年間200人台で推移していたが、平成30年に初めて年間200人を下回った。死亡数は平成30年まではほぼ年間300人台で推移していたが、令和元年に年間400人を超え、出生・死亡に伴う自然動態は、死亡数が出生数を上回る「自然減」が続いている。

転入数は平成23年から年間1,000人前後で推移している。一方、転出数は平成23年から減少傾向であり、令和2年以降は年間900人台で推移している。転入・転出に伴う社会動態は、平成23年以降、転入数が転出数を下回る「社会減」となっている。また、令和2年からの5年間で約430人の転出超過が発生しており、特に若年層の就職を契機とした転出が集中している。

令和5年に発表された国立社会保障・人口問題研究所の日本の地域別将来推計

人口によると、本市の人口は今後減少傾向で推移していくことが見込まれ、令和32年には総人口が19,273人となることが予測されている。本市の老年人口は令和7年以降減少傾向で推移していくことが見込まれ、生産年齢人口及び年少人口は令和2年以降減少傾向が続いていくことが予測されている。

これら人口減少と少子高齢化の進行により、農業、製造業、医療・介護、サービス業などで人手不足に直面している。特に中小企業では後継者不足の深刻化が懸念されており、地域経済の持続性に影響を及ぼしていると考えられる。

こうした人口減少に歯止めをかけるため、本市では、目指すべき将来展望としてKGI(重要目標達成指標)を設定し取組を進めていく。設定するKGIは、社会増減率、出生数、幸福度の3つである。これらのKGIを達成した場合、令和17年頃から人口減少のスピードは緩やかになり、その後は微減を継続する想定である。

これらの課題解決にむけて、まちの将来像を示すとともに、本計画期間中、本市が抱える課題の解決に向け特に注力する取組を「稼ぐ」「人財投資」「社会資本投資」の3つの政策領域に整理し領域ビジョン(基本目標)を掲げ、将来像の実現とKGI達成に向け取組を進めていく。

#### 【まちの将来像】

「選ばれるまち」として、若者や子育て世代をはじめとする多様な人々が、矢板市で働き、暮らし、将来にわたって住み続けたいと思えるような安心で魅力ある環境を整えること。

「繋がるまち」として、地域内外の人・企業・資源が交わり、相乗効果を生み出し、地域の活力を高めていくこと。

「新しい価値を創るまち」として、地域の可能性を信じ、複雑化する社会課題や困りごとの解決に資する新しい価値を創り、子どもから高齢者まで誰もが希望を持って暮らせる持続可能で創造的なまちを築くこと。

#### 【領域ビジョン(基本目標)】

##### 1. 稼ぐ領域の領域ビジョン

誰一人取り残さない心優しい行政サービス、子育て等の大胆な環境整備のための歳入の最大化

##### 2. 人財投資領域の領域ビジョン

地域に根ざした人財の循環的な育成と活躍の場の創出と年齢・性別・障がい

の有無等に関わりなく安心して暮らせるインクルーシブな社会の実現

### 3. 社会資本投資領域の領域ビジョン

まちの持続的な成長を支える社会基盤の強化（人が住み、企業が活動する理由づくり）

#### 【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2035年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
ア	令和8年以降に立地した 企業からの固定資産税（累 積）	—	1,500,000千円	基本目標 1
	ふるさと納税寄附額	276,312千円	1,000,000千円	
	企業版ふるさと納税額 (累計)	6,100千円	150,000千円	
	農地利用集積率	74.3%	80.0%	
	観光客宿泊者数	26,427人泊	30,000泊	
	伴走支援実施数（累計）	—	40件	
	創業・起業件数	—	5件	
	事業承継件数（累計）	—	5件	
	矢板市と企業等による共 創事業（実証事業等）の 実施件数	—	4件	
	m G A P（修正地域参画 総量指標）	未測定 (令和7年度測 定)	令和7年度測定 値+600pt	
イ	この地域で子育てをした いと思う親の割合	88.1%	95.0%	基本目標 2

	子育てしながら仕事をすることが難しそうと答えた人の割合	19.9%	10.0%	
	婚姻した人の数	105人	105人	
	子育てに不安や負担を感じないと答えた人の割合	35.2%	45.0%	
	自分には良いところがあると思う児童の割合（小学校）	71.8%	84.0%	
	自分には良いところがあると思う生徒の割合（中学校）	86.8%	90.0%	
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童の割合（小学生）	76.1%	80.0%	
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う生徒の割合（中学生）	83.9%	88.0%	
	健康寿命の延伸 （不健康期間の短縮状況）	男性 79.55歳 女性 83.13歳	男性 80.05歳 女性 83.73歳	
	ボランティア団体数	53団体	57団体	
	ボランティア団体登録人数	2,625人	2,725人	
ウ	空き家率	20.8%	20.8%	基本目標 3
	居住誘導区域の世帯数（人口集中率）	5,680世帯 (47.3%)	5,680世帯 (53.8%)	
	居住誘導区域の居住人数（人口集中率）	13,822人 (44.4%)	13,822人 (53.7%)	
	デジタル行政サービスの	40.5%	60.0%	

利用状況		
再生可能エネルギー導入 件数	1,971件	2,800件
公共交通利用者数（1日 当たり）	91.1人	110.0人
第3次産業事業所数	977事業所	1,086事業所
災害時協力協定締結自治 体数	1市町村	4市町村
まちの魅力度（住みよい 理由で「魅力・活気があ る」と答える方の割合）	1.6%	20.0%
公共施設の利用者数（子 育て、文化・社会教育・ スポーツ・産業系施設、 公園）	2,234,338人	2,463,000人

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する  
特例（内閣府）：【A2007】

#### ① 事業の名称

矢板市企業版ふるさと納税推進事業

ア 稼ぐ領域（地域経済の自立と成長）

イ 人財投資領域（人が育ち、活躍し、地域に根づくまちへ）

ウ 社会資本投資領域（暮らしやすく持続可能な地域基盤の形成）

#### ② 事業の内容

ア 稼ぐ領域（地域経済の自立と成長）

### 【領域ビジョン（基本目標）】

誰一人取り残さない心優しい行政サービス、子育て等の大胆な環境整備のための歳入の最大化

### 【取組の方向性】

雇用及び経済分野の改善を図り、市民一人ひとりがより満足な雇用と所得を得られるよう、成長産業や本市の特性に合わせた企業の誘致を進めるとともに、市内事業者の生産性向上を図り、市民・産業・行政が「稼ぐ」地域づくりを推進することにより、行政サービス、子育て等の大胆な環境整備を行うための歳入の最大化を目指す。

あわせて、このビジョンを実現するために必要となる制度活用や先駆的な取組に挑戦する。

### 【具体的な事業】

- ・企業立地・産業集積に向けた戦略策定
- ・「稼ぐ」農業の実現
- ・「滞在型観光」の促進
- ・市内企業に対する伴走支援モデルの構築 等

## イ 人財投資領域（人が育ち、活躍し、地域に根づくまちへ）

### 【領域ビジョン（基本目標）】

地域に根ざした人財の循環的な育成と活躍の場の創出と年齢・性別・障がいの有無等に関わりなく安心して暮らせるインクルーシブな社会の実現

### 【取組の方向性】

全ての世代が自分らしく活躍できるまちを目指し、切れ目ない子育て支援、柔軟な働き方・暮らし方の推進、そして社会を生きる力を育てる教育を推進する。人と人とのつながりを大切にし、心の豊かさを育むことで、市民の幸福度向上を図る。特に、若い世代の幸福度向上を目指す領域の横断的な取組として「子育てに、ヨユウを。プロジェクト」を立ち上げ、働きやすい環境整備、子育て・教育に関する不安感・負担感の軽減を図る。

### 【具体的な事業】

- ・妊娠期から出産・子育てまでの切れ目のない子育て支援
- ・働きやすい就労環境の整備
- ・結婚を実現しやすい環境の整備
- ・多様なニーズに合った質の高い子育て支援サービス 等

#### ウ 社会資本投資領域（暮らしやすく持続可能な地域基盤の形成）

##### 【領域ビジョン（基本目標）】

まちの持続的な成長を支える社会基盤の強化（人が住み、企業が活動する理由づくり）

##### 【取組の方向性】

安心・快適な暮らしを支える都市・生活インフラを整備し、交通・住宅・防災・デジタル化等の多様な観点から都市環境の質をさらに向上させることにより、住民や事業者双方が成長し活躍できる持続可能で未来志向の地域社会の構築を目指します。

##### 【具体的な事業】

- ・不動産流動性の向上
- ・移住定住の促進
- ・地域社会全体のデジタル化
- ・まちの環境性能向上 等

※なお、詳細は矢板市総合戦略のとおり

#### ③事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

#### ④寄附の金額の目安

8,000,000千円（2026年度～2035年度累計）

#### ⑤事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度9月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取り組み方針を決定する。検証後すみやかに矢板市公式WEBサイト上で公表する。

#### ⑥事業実施期間

2026年4月1日から2036年3月31日まで

## 6 計画期間

2026年4月1日から2036年3月31日まで